

あったかウェルねっと



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク あったかウェルねっとニュース 第2号

2004年12月21日発行

ホームページ <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/7815/>

毎夏恒例となった彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修も今年は5年目を迎え、一区切りとなりました。あったかウェルねっとに新しいメンバーが加わり、数ヶ月。早くも年の瀬となり、気忙しい時期ですが、夏以降の情報をお届けします。

事務局より各種報告

あったかウェルねっとのみなさん、お世話になります。事務局担当の横田八枝子です。「ねっと会報2号」発行までの6ヶ月の間にたくさんの方がいました。抜粋して報告します。

--*-*

県社協高木さんより第5期推進員(60名)と報告がありましたが、研修のお手伝いをした最終日(8/11)に原田正樹先生や県社協の高木さんはじめ皆様のご協力をいただき、第5期福祉教育・ボランティア学習推進員のみなさんに「ねっと加入」をお願いしました。

疑似体験で
まち探検(8/3)



あったかウェルねっとに 第5期推進員『22名』が加入

新会員は、所属も市町村も様々な分野でご活躍の方々に、ボランティア活動者、小中教員、社協職員、教育委員会などです。(ボランティア分野には、車いす利用の方、弱視障害の方、盲導犬と生活をともにしている視覚障害の方もおられます。)

新会員からの声

研修はとても勉強になりました。今さっそく講座をもとにどう生かそうか奮闘しています。大変お世話になりました。登録の件、よろしくお願ひいたします。今後の活動については、具体的な方向性はま

だ未知数なのですが、皆さんから情報を頂く中で、自分にできる事を見つけていけたらと思っています。

嵐山での研修では、お世話になりました。内容が充実していて、こちらではあんな研修会がひらけるか、不安です(;_;)が、がんばりたいと思います。

今後ともよろしくお願ひします。



“ 埼玉らしさ ” 「 埼玉といえば福祉教育 」 「 埼玉の福祉教育といえば推進員ネット 」 という事で・・・

第4回全国障害者スポーツ大会 「ふれあい広場」

まごころ国体に続いて行われた「第4回全国障害者スポーツ大会」のメイン会場の熊谷会場では、埼玉県社協主催の「ふれあい広場」が11月13日(土)から15日(月)まで開催され、選手や応援団、観客、地元住民など111,000人の来場者のふれあいの場になりました。

内容としては、飲食物の屋台や郷土品や授産品の販売、休憩所や体験コーナーなどのテントやブースを出展したり、ステージ上で歌や踊りなど様々でした。そして、障害者が主役の3日間は、会場全体に障害者への配慮があり、とても良かったです。

平成16年度あったかウェルねっと事業

平成16年度のあったかウェルねっと事業 (年1度の県民対象の事業)の報告です。

--*-*

事業名：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク2004「あったか はあと彩の国から発信」

開催場所：「第4回全国障害者スポーツ大会」
彩の国まごころ大会 ふれあい広場
(熊谷ドーム内ブース【NO.110】)

目的：埼玉県はじめて全国から来場の子供や大人たちとの「福祉交流」

内容：あったか交流・ミニ体験

推進員コーナー

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク活動紹介

安藤謙一絵画作品展示と安藤さんの生活映像
うつくしま福島大会車椅子スラローム金メダリスト茂原君子元選手写真展示

石川さんと手話交流(筆談、ジェスチャーを使いながら)

松嶋さんと柿でおしゃべり

スタンプラリーの参加者と交流

テーマ：障害者との交流や体験をとおして、障害者スポーツの魅力や意義を考えてもらう

お茶をどうぞ!

* ウィンドブレーカー支給は、共同募金配分金事業として実施。

障害者の社会参加の促進を目的に1日以上従事する障害者に「ウィンドブレーカー」が支給されました。

* 前日には神川町社協のご協力をいただき、安藤さんの絵画とパソコンを搬入しました。

--*

《1日目》11月13日(土)開会式終了直後からたくさんの人出。お茶のサービス100名。障害児(小4)のお母さんのお話を聞きました。推進員13名(ワビ尾崎・福田・杵ガリ角田・ミヨ山田・ヒガカ永田ヒ・永田ア・加加安藤・渋谷・クマガヤ茂原・コガヤ石川・ラザン田中・モヤマ木野・サト横田)の他に、安藤さんのお母様とボランティア長浜さん、茂原さんのボランティア浅古・根岸さん、渋谷さんの奥様、越生の初山さん、毛呂山の新原さんらが担当しました。

--*

《2日目》11月14日(日)10:00~17:00
午後からたくさんの人出。選手が次々に来てくれました。80個の柿を200名以上にサービス。推進員11名(杵ガリ松嶋・杉本・ミヨ脇・加加安藤・渋谷・クマガヤ茂原・コガヤ石川・サト須田・横田・サト坪井・正能)の他に、茂原さんのボランティア竹沢さん、正能さんのご家族らが担当しました。

--*

《3日目》11月15日(月)10:00~16:00
朝からの大雨はお昼には上がり陽射しが・・・。杉田二郎他2名のコンサート&閉会式ですごい人出。最終日なので嬉しい競技の結果報告がた



くさんありました。推進員13名(杵ガリ角田・郷・石山・権頭・庄司・加加安藤・クマガヤ茂原・モヤマ木野・サト横田)の他に、安藤さんのボランティア長浜ご夫妻、茂原さんのボランティア浅古・根岸・駒宮さん、越生の小林さんらが担当しました。

参加者から

ゴールドメダリストの茂原さんサイン攻め。熊谷市の中学生たちは「総合学習」でボランティアに行った茂原さんを見つけ挨拶(握手)。アンケンさんの絵すばらしいですね、車椅子バスケットも見学できたし、2つの目標達成。(H・I)絵を見てとても感動しました。これからもあたたかい絵を画き続けていって下さい。お互いに頑張りましょう!(S・K)等々、たくさんの方が安藤さんの絵のあったかさを絶賛。熊谷市在住の前島さんは、「石川さんに手話を教えてもらって嬉しかった。忘れないように練習します。」と優しい目で語っていました。それから、たびたび推進員コーナーに遊びに来てくれた埼玉県毛呂山町の19歳良本知比路さん(聴覚障害)は、400m1位&走り高跳び1位で表彰台で二つの金メダルをもらったと嬉しそうに伝えてくれました。

参加しました!

パネラー参加&ボランティア協力!

第10回関東ブロックボランティア活動推進会議
そうか!?わかったパリッと情報満載の国さいたま

日時:平成15年10月15日 9:30~16:00
(16:00~交流会)

会場:彩の国すこやかプラザ(与野駅徒歩10分)

対象:社会福祉協議会・行政・企業・NPO等のボランティア担当者等

内容:講演「サッカーを通じたまちづくりとボランティア」

分科会

なっとく!知って得する社協とNPOの協働
うちでもできる!地元ならではの企業と一緒の社会貢献

みんなで考えよう!地域の福祉教育

【事例発表者】

- ・三芳町立三芳東中学校 脇美智子氏
- ・彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク 横田八枝子氏

- ・特定非営利活動法人法人ふじみの国際交流センター 石井ナナエ氏

- ・埼玉県社会福祉協議会

【コーディネーター】学習院大学助教授 長沼豊氏

障害者スポーツとボランティアの取り組み
当事者が行うボランティア活動の支援
ごみ拾いだけじゃない！～環境ボランティア～

あったかウェルねっと「協同実践で
高等学校初任者研修の講師役」(12/8)

埼 玉県総合教育センターからの依頼に答え「福祉教育の意義と進め方」講義・協議、及び「視覚障害者への介助体験」講義・実習を手伝いました。初任者からは、いい学びを得られた。充実したものだったという感想を述べる人もおられたようです。

「福祉教育」が「人間教育」の大切なところを担っていることや、「福祉」は特別なことではなく、社会生活の中のすべてに直結していることが理解いただけただけです。あったかウェルねっとも、更に精進を重ね、地域で共に支え合い、一人一人が生きる喜びを味わうことが出来るよう、様々な人たちに目を向けて「共に生きる力」を育てていきたいと強く思いました。

十文字学園女子大学
新座市内大学公開講座(12/11)に参加！

～住みなれた地域で安心して暮らしていくために
- 私たちができること～

治 安の悪化、自然災害の増加、ちまたに生活不安があふれています。また、突然家族が倒れば、生活環境は大きくかわってしまいます。3人のパネラーによる地域での実践例も、会場との質疑応答も、暮らしに根ざした地域連携が必要と感じる内容でした。

報告とお知らせ

7月13日新潟・福井県の水害における義援金を被害の大きかった三条市に振り込みました。

*あったかウェルねっと義援金「1万円」
*送付先 金融機関名：郵便局 口座名義：三条市7.13水害義援金

11月20日花園町からの研修依頼にお応えしました。

ボランティアセンターの運営委員を中心とした研修に、町内の学校の先生にも声をかけて開催。脇さんが、ボランティアとしての立場と、学校の先生としての立場、両方からのお話をしました。

--*-*-*

あったかウェルねっと世話人牛久保さんが、11月から産休に入ります。くれぐれも、お身体をお大切にしてくださいね。

埼玉県社協より

「埼玉県福祉教育・ボランティア学習関連事業検討委員会」

第1号のあったかウェルねっとニュースでもお知らせしましたが、これまで埼玉県社協で取り組んできた福祉教育関連事業を振り返り、来年度以降の事業について検討するための委員会を開催しました。現在、そのまとめを行っているところですが、ここで概要についてお伝えいたします。

まず、基本方針としては、「推進員養成研修」を発展させ、今後も継続していくということです。これまで、研修を受けたくても受けられない方が多くいました。そのような方にも研修を受けていただき、より多くの地域で、様々な立場の方が推進員になっていただけるような制度にしていきたいと思えます。そして、認定を受けたみなさまが地域で活躍しやすい環境を整えることにも力を注いでいきたいと思えます。

また、推進員の皆さんを始めとした地域の様々な関係者が協働しやすいように、実践の積み重ねから“福祉教育プラットフォーム”の構築を目指します。そして、様々な立場の方が専門性を活かしながら、各地域で質の高い福祉教育を推進する方策を考えるため、“福祉教育研究会”を設置して、継続的に福祉教育のあり方について研究していきたいと思えます。

そして、みなさまが取り組む福祉教育実践が、地域の実際の課題解決に向けて検討を重ねながら、具体的な行動や実践にむすびつけていくといった、プロセスを大切にしたい学び（地域福祉を推進するための福祉教育）になることを目指します。

「平成16年度埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」

今年度も8月に推進員養成研修が開催されました。今年度の認定者は、60名といつもより若干少なめですが、その分熱意あふれる皆さんがお仲間に加わりました。これまでの5年間で402名の推進員が誕生したことになおります。ネットワークのメンバーも、174名になりました。新しいお仲間と一緒に、福祉教育で素敵なまちをつくっていきましょう。

ニュースより

「奉仕体験活動義務化」

新聞等でご存知の方も多いかもありませんが、東京都教育委員会が、2007年度からすべての都立高校で「奉仕体験活動」を必修科目とする方針を明らかにしました。これは、卒業に必要な単位として、一単位（年35時間）を設定し、10時間程度は座学。残りの時間に施設での生活支援や野外活動への参加、河川や公園の掃除などの体験を行わせるというものです。都教育委員会では、早速平成17年度から20校を研究指定校として導入を開始するそうです。

「総合的な学習の時間」での活動がある中で、あえて「奉仕体験活動」を新たに義務付けなければならなかったのは何故でしょうか。そして、義務付けされて行った奉仕活動から、生徒は何を感じるのでしょうか。

東京都が行うということは、それ以外への波及も大いに考えられます。神奈川県でも同様の動きがあるようです。隣の埼玉県に住む我々も、無関係ではないはずですが、疑問や不安もありますが、もしそのような制度になるのであれば、せつかくの時間を有意義なものとするために、できる事を考えなければなりませんね。

「総合」授業プログラム開発を民間に委託
（日本教育新聞 12月3日）

東京都杉並区教育委員会は、平成17年度から小中一貫教育を開始する同区の3つの小中学校で行う「総合的な学習の時間」の一部の授業内容開発を、民間研究機関「三菱総合研究所」に委託したことを明らかにしました。プログラムの開発には、一貫教育を開始する3校の教職員のほか、区内の校長、教頭、主幹などが参加し、2週間に1回、三菱総研と意見交換を行います。

“委託”という関係ではありますが、企業やシンクタンクがプログラムを作り、学校側が注文を付けるだけという一方的な関係ではなく、本当の意味での協働ができれば、地域の専門的知識や技術を活かした、とてもよいプログラムが生まれるのではないのでしょうか。

「小中9年間を見通した「総合」内容系列作る」
（日本教育新聞 12月17日）

愛知県一色町では、文科省の研究開発学校の指定を受けて、町内の4小学校と一色中学校の5校が一体となって、小・中一貫の「総合的な学習の時間」の教育課程づくりと体系的な

評価の研究を進めてきました。

一色中では、今年度、伝統・文化、福祉・社会、産業・経済、環境・自然、命・生き方、の5つの視点から「総合」のカリキュラムを構成しました。こうした大きなカリキュラムの視点は小学校とも共通しており、9年間を通して内容系列に配慮した単元構成を工夫しています。

5校では、水曜日と金曜日に2時間続きで「総合」を設定し、年間140時間を確保しました。町内一斉で「総合」を行うことにより、複数年や複数校の学級が同一課題で交流できます。

また、体系的な評価活動の研究にも力を入れており、特に自己評価活動を活性化させるために、自己評価の基準を子どもに持たせる試みも進め、教師が作った基準で自己評価するレベルから、徐々に自身が作った基準で自己評価できるレベルへと、基準の内面化を図っています。

ホームページをご覧いただけましたか？

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワークホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/7815/>

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well Being(幸福)のWell(大切にという意味)です。私たちのネット愛称には、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたいとの願いが込められています。

---編集後記---

今年度は、ねっとニュースが印刷版の会報になりました。ようやく第2号が発行できホッとしています。活動の報告や心に残ったことなど、みなさんからの投稿をお待ちしています。(S)

発行

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク事務局

〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田4-7-12-504
横田八枝子 (TEL&FAX: 049-281-3161)
(e-mail: y-yae@xf7.so-net.ne.jp)

協力

埼玉県社会福祉協議会 埼玉県ボランティアセンター
担当: 高木 (TEL: 048-822-1192 FAX: 048-822-1449)
(e-mail: takagi@fukushi-saitama.or.jp)

編集

あったかウェルねっと世話人会(情報担当)